

日本がくれた大切なモノ

ホープラサート・ワリサラー（タイ）

「将来の夢は何ですか？」という質問はき  
、と誰でも聞かれたことがあるでしょう。私  
はこういう質問は本当に聞き飽きました。そ  
して、そんな質問を聞かれた時、すぐに頭に  
浮かぶものもなく、チケットに答えることし  
かできませんでした。私は子供の頃、夢がな  
く、やりたいこともありませんでした。自分  
の将来はどうなるのか全く思いつきませんで  
した。

夢があからなかつたら、得意なことや趣味  
などを夢にすればいいという人もいました。  
ですが、私には全然わかりません。絵を描く  
のが好きですが、毎日絵を描くのは嫌です。  
プログラミングが得意ですが、自分の作りた  
いプログラムを作り出してと言われたら何も  
思いつきません。日本に興味があつて日本語  
もちよ、とできるから日本に行きたいと思う  
こともありましたが、具体的に日本で何をし

たいのか全然わからなかったのです。

夢がないことは辛いことです。自分は何のため  
に生きているかわからないのは辛いです。

生きていくことも、私にと、てかなり難しい  
です。私がしくじ、た時、いつも親に「こん  
なのこの世界で生きていられないよ。」とよく  
言われました。何回も何回もその言葉を聞いて  
いたら、「やりたいこともないし、この世  
界で生きていられない私は死んだ方がいいん  
じやないのか。」と、つくづく思うようになり  
ました。その思いが原因で私は精神的にしん  
どくなり、「病み垢」を始めました。

その「病み垢」というのはネガティブな感  
情や不安をつぶやくためのSNSの専用アカ  
ウントのことです。私は友達に自分の悩みを  
相談したことがあります。その時、「そんな  
のち、ぼけなことだよ。」や「私の方がつらい  
よ。」などと言われました。辛さは比べられる  
ものではないし、理解してもらえませんでした。  
それから、私は自分の感情を友達に伝え

ることが嫌になりました。ですから、私は誰も私のことを知らない世界、つまりインターネットの世界で、偽名を使って痛み垢を始めました。タイ語でつぶやくのもなんだか嫌で私は日本語でつぶやくことにしました。

痛み垢を始めてから私は日本の中学生から社会人までいろいろな人とつながりました。その人たちとの関係は友達というより、「傷の紙め合い」という言葉の方が合っているでしょう。お互いも偽名を使っているし、悩みを聞いてなぐさめることしかしていません。

それでも、私は、いつも私の話を聞いてくれることをありがたく思っています。多くの人々が痛み垢に悪い印象を持っていますが、私にとって痛み垢は救いです。なぜなら、ずっと悩みを抱えたままにいるといつか自分は壊れてしまうからです。

痛み垢で知り合った人のことですが、その人は障がい者で、生まれつき耳が聞こえず、目も片方しか見えません。障がいのことで彼

は職場での人間関係がうまくいかなかったみたいです。そのことで彼は自殺未遂をしたこともあったそうです。彼のその話を聞いたらずっと空っぽだ。私の心に何かが生まれたような気がしました。そうです。やっぱり私は自分のやりたいことを見つけました。私は彼のように障がい困っている人を助けたいです。少しでも役に立ちたいです。

それで、私は思いつきました。その人たちを助けるために自分の得意なプログラミングを使えばいいと。ですが、得意といっても、ただ高校のクラスで一番得意だった程度で、簡単なプログラミングしかできません。技術は絶えず進歩していくものですが、なぜかタイではあまり進歩していません。特に障がい者を支える技術はほとんどありません。日本の技術は発展しており、障がい者を支える技術もたくさんあるので、私は知識を得るために日本に留学しようと思いました。そして、今は日本に留学することができて、夢への一

歩が踏み出せました。

やっと、私は自分の将来の夢がはっきりわ

かりました。それは、障がい者や困っている

人たちを支える技術を開発することです。日

本に興味を持ち、たことが私の人生を変えたの

です。何のために生きているかわからなかつ

た私に、自分には存在価値があるということ

をわからせてくれました。日本は私に生きる

意味をくれたといっ、ても言い過ぎではないで

しょう。これから頑張っ、て生きていきます。

夢へ向かっ、て生きていきます。私は、技術が

絶えず進歩していくこの世界とともに成長し

ていきます。日本に出会えて本当によかつた

です。